



日本財団母乳バンクについて

2025年7月

アジェンダ



1 母乳バンクについて

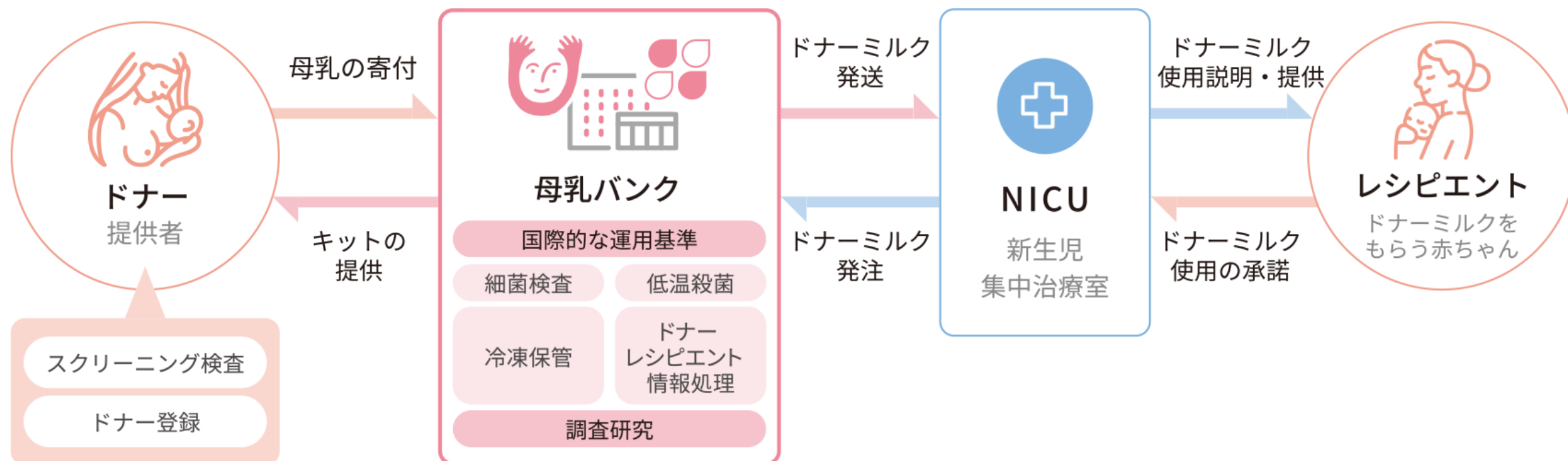
- ・ 母乳バンクの概要（映像つき）
- ・ なぜ母乳バンクが必要なのか
- ・ 世界における母乳バンクと母乳バンクの歩み
- ・ 主な活動内容と特徴
- ・ ドナーミルクが赤ちゃんに届くまで

2 現状の課題と今後の施策

1. 母乳バンクについて

「母乳バンク」とは

母乳バンクとは、ご自身のお子さんが必要とする以上に母乳が出るドナーよりご寄付いただいた母乳を、適切に低温殺菌処理、細菌検査、冷凍保管し、NICU（新生児集中治療室）の要請に応じて、「ドナーミルク」として早産・極低出生体重（体重1,500g 未満）の赤ちゃんに提供する仕組みです。



なぜ母乳バンクが必要か？①

厚生労働省「人口動態統計」	1980年	2019年
出生数	約158万人	約87万人
極低出生体重児(1500g未満)	5972人	6467人
超低出生体重児(1000g未満)	1490人	2646人

- 母乳バンクが対象としている極低出生体重児は年間約6,500人産まれる

⇒超低出生体重児のNICU入院中の死亡率9.2%(2015)

原因：感染症21.3%、壊死性腸炎・消化管穿孔16.2%（死亡率58%）

⇒壊死性腸炎・慢性肺疾患・未熟児網膜症・遅発型敗血症等の罹患リスク

⇒長期的にも将来の認知機能や運動機能への影響

- 人工乳の場合

⇒壊死性腸炎・慢性肺疾患・未熟児網膜症等の疾病リスク高

なぜ母乳バンクが必要か？②

- 母乳の場合：

⇒栄養素（タンパク質、脂質等）+ 生理活性物質※（sIgA,ラクトフェリン等の免疫物質、細胞成分、ヒトミルクオリゴ糖等）※人工乳にはない成分

⇒細菌やウイルスに対する感染防御作用、ビフィズス菌増殖作用

⇒壊死性腸炎の予防に寄与／生後早期に母乳を腸にあげることで、病気（特に目と肺）が減らせる

- ただし、年間約6,500人産まれる極低出生体重児のうち理想的な生後24時間以内に経腸栄養をはじめるのに母親以外の母乳を必要としている赤ちゃんは約5,000人

⇒早産で体調が整わない、死去、抗がん剤治療、感染症の隔離等様々な理由で母親以外の母乳が必要

⇒母乳を得られない赤ちゃんにドナーミルクが必要

- ドナーミルクの効果

- くすり（免疫力向上効果）→**疾病予防、長期予後の改善**

- 静脈栄養期間の短縮・入院期間の短縮→**医療費削減、家族の負担減**

- 2019年7月 日本小児科学会： 「もし、十分な支援によっても、自母乳が得られない。児に与えられない場合にはドナーミルクを用いる」（「早産・極低出生体重児の経腸栄養に関する提言」）

世界における母乳バンク

- 1909年 最初の母乳バンクがウィーンで誕生
- 1919年 アメリカ最初のバンク設立（ボストン）
- 1985年 北米母乳バンク協会設立
- 2010年 欧州母乳バンク協会設立（ミラノ）

【2022年現在、66か国・750施設以上】



北米(31)



欧州(281)



英国(15)

ブラジル
(203)



<https://www.internationalmilkbanking.org/index/worldbanks/>

日本における母乳バンクの歩み

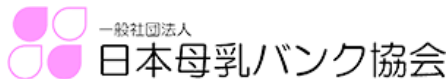
- 2013年6月 昭和大学医学部小児科学教室にて、母乳バンク準備室開設
- 2014年4月 厚生労働省研究班【分担研究 母乳バンクの安全な運用】（～2017年3月）
- 2014年7月 「昭和大学江東豊洲病院母乳バンク室」開設
- 2017年5月 一般社団法人日本母乳バンク協会設立
- 2019年7月 日本小児科学会提言
- 2020年4月 厚生労働省研究班「ドナーミルクを安定供給できる母乳バンクを整備するための研究」（～2023年3月）
- 2020年9月 **「日本橋母乳バンク」**（運営：日本母乳バンク協会）開設
- 2021年3月 昭和大学江東豊洲病院母乳バンク室閉室
- 2021年4月 一般財団法人日本財団母乳バンク設立
- 2022年4月 **「日本財団母乳バンク」**（運営：日本財団母乳バンク）開設
- 2023年4月 こども家庭庁研究班「ドナーミルクを必要とする児に普及するために必要なエビデンスを構築するための研究」（～2026年3月）
- 2023年6月 **「藤田医科大学病院日本財団母乳バンク」**（運営：日本財団母乳バンク）開設

水野先生と母乳バンクの歴史、レシピエントストーリーなどがまとまった漫画冊子ができました。
（公式HP＞団体概要ページからダウンロードしていただけます）

日本における母乳バンクの歩み

世界：1909年に最初の母乳バンクがウィーンで誕生以来、66カ国750カ所以上

日本：一般財団法人日本財団母乳バンクと一般社団法人日本母乳バンク協会の2つの法人が「日本橋母乳バンク」（運営：日本母乳バンク協会）、「日本財団母乳バンク」・「藤田医科大学病院日本財団母乳バンク」（運営：日本財団母乳バンク）の3つの母乳バンク拠点の運営を担っています。
➡2拠点で業務委託を提携し、母乳バンクの普及につとめています。

団体名		
ドナーミルク 使用施設	既存（契約中施設への対応）	新規（追加契約への対応）
代表者	水野克己（昭和大学医学部小児科学講座主任教授）	
運用	母乳バンク運用基準	
その他に、所在地、施設規模、職員数、賛助会員規定、財源などが異なります。		

日本財団母乳バンクの特徴



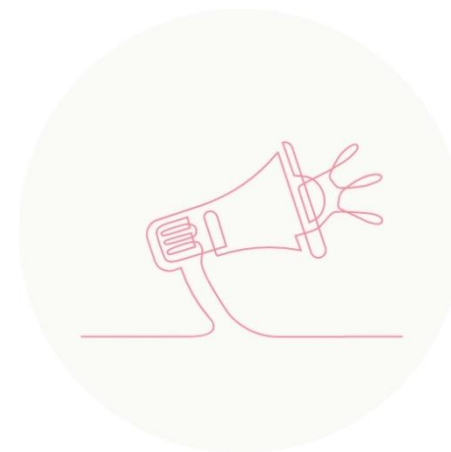
ドナーミルクの安定供給

国内最大規模の母乳バンク室（82.1㎡）のクリーンルームでドナーミルクの低温殺菌処理および冷凍保管を行い、ドナーミルクを安定的に提供できる体制を構築します。



ドナーミルクの安全性と 効果の調査研究

早産児・極低出生体重児の成長を促すドナーミルクの栄養価や生理活性物質量を測定分析することで、オーダーメイドのドナーミルクを提供できる研究体制を構築します。



母乳バンクに関する周知啓発

より多くの赤ちゃんの命を守るために、母乳バンクの活動をウェブサイトやイベントなどで発信、カンファレンスや学会の共催で研究成果も積極的に発表していきます。

日本財団母乳バンクの特徴



ドナーミルクの安定供給

国内最大規模の母乳バンク室
(82.1㎡) のクリーンルームで
ドナーミルクの低温殺菌処理お
よび冷凍保管を行い、ドナーミ
ルクを安定的に提供できる体制
を構築します。



日本財団母乳バンクの特徴



ドナーミルクの安全性と 効果の調査研究

早産児・極低出生体重児の成長を促すドナーミルクの栄養価や生理活性物質量を測定分析することで、**世界初のオーダーメイドのドナーミルク**を提供できる研究体制を構築します。



日本財団母乳バンクの特徴



母乳バンクに関する周知啓発

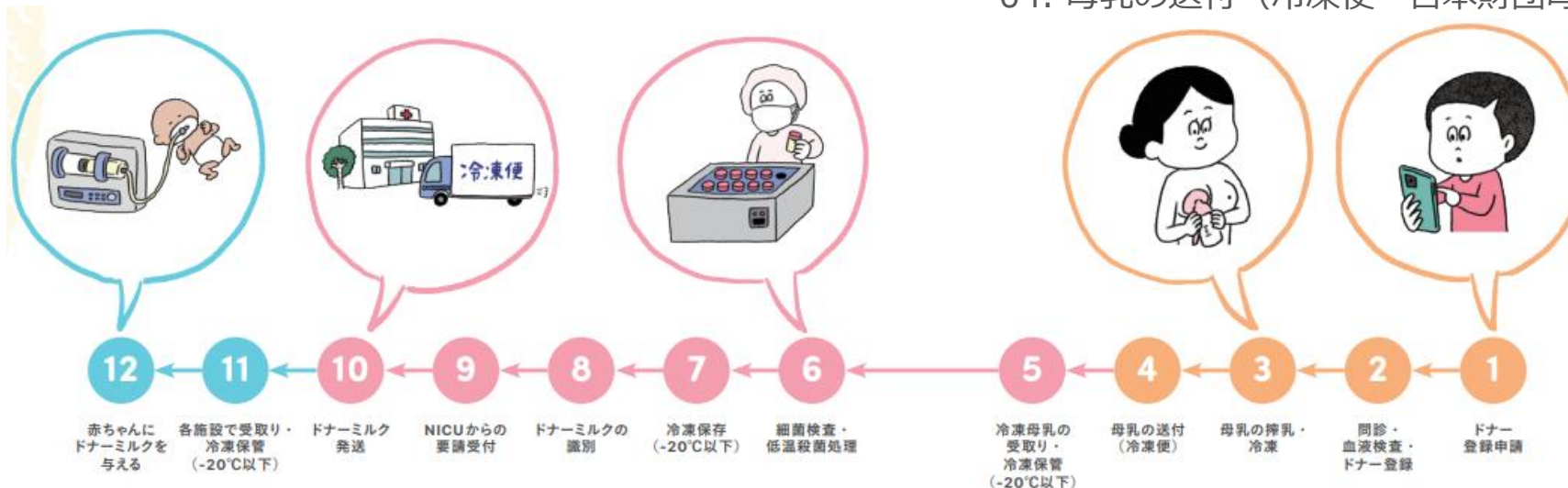
より多くの赤ちゃんの命を守るために、母乳バンクの活動をウェブサイトやイベントなどで発信、カンファレンスや学会の共催で研究成果も積極的に発表していきます。



ドナーミルクが赤ちゃんに届くまで

■ NICU→赤ちゃん

11. ドナーミルクの受取り・冷凍保管(−20℃以下)
12. 保護者の承諾を得た赤ちゃんにドナーミルクを与える



■ 日本財団母乳バンク→NICU

05. 冷凍母乳の受取り・冷凍保管(−20℃以下)
06. 事前細菌検査→低温殺菌処理→事後細菌検査
07. 冷凍保存(−20℃以下※搾乳日から6カ月で廃棄)
08. ドナーミルクの識別
09. NICUからの要請受付
10. ドナーミルク発送(冷凍便)

■ ドナー→日本財団母乳バンク

01. ドナー登録申請(フォーム送信等)
02. ドナー登録施設での問診・血液検査→正式ドナー登録
03. 自宅での搾乳・冷凍
04. 母乳の送付(冷凍便・日本財団母乳バンクへの着払)

2. 現状の課題と今後の施策

活動状況：今年度の活動実績

活動データ	【2025年度】 2025.04～2025.06 (3か月)	【2024年度】 2024.04～2025.03 (12か月)	【2023年度】 2023.04～2024.03 (12か月)
ドナー登録申請数	222 人	648 人	555 人
ドナー登録完了数	127 人	456 人	356 人
冷凍母乳受領件数	415 件	1287 件	1016 件
冷凍母乳受領量	883.940 ℓ	2543.555 ℓ	1840.013 ℓ
低温殺菌処理量	486.070 ℓ	1758.440 ℓ	1325.790 ℓ
発送施設数	52 施設	67 施設	49 施設
発送量	291.99 ℓ	1201.86 ℓ	822.42 ℓ
提供赤ちゃん人数(新規)	151 人	518 人	314 人
ドナーミルク使用NICU数※1	69 施設	67 施設	47 施設
ドナー登録施設数	27 施設	24 施設	18 施設

※1 登録のあるドナーミルク使用NICU数

国内母乳バンク活動の推移

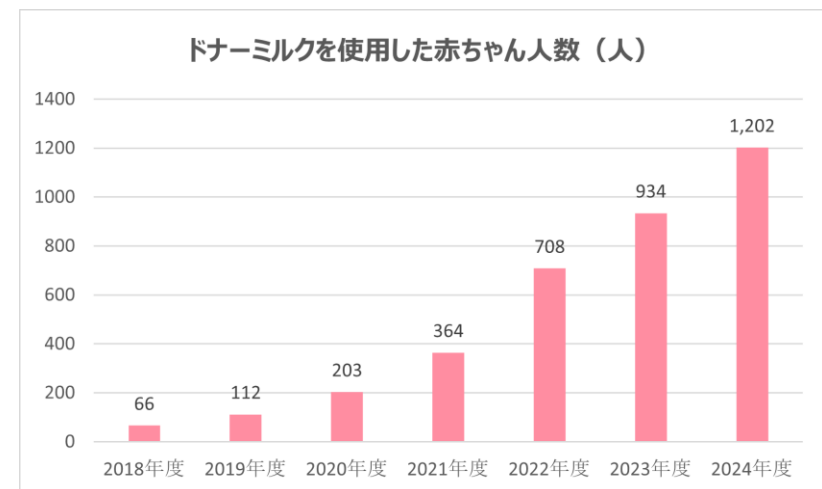
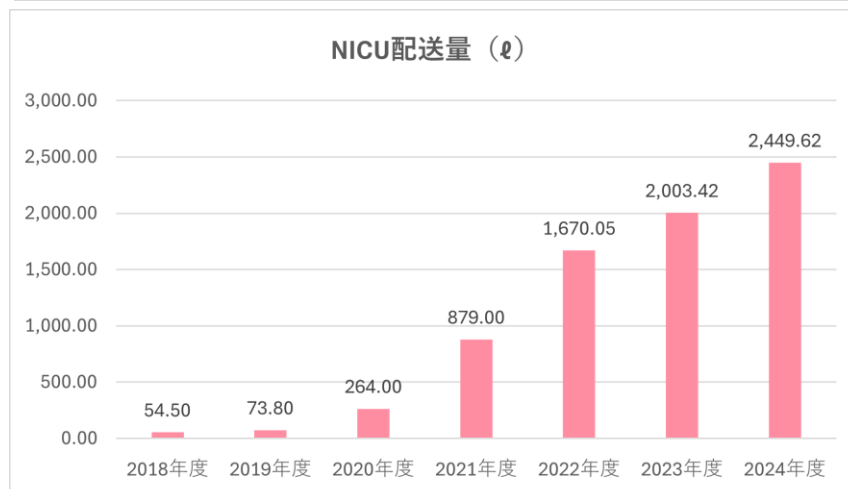
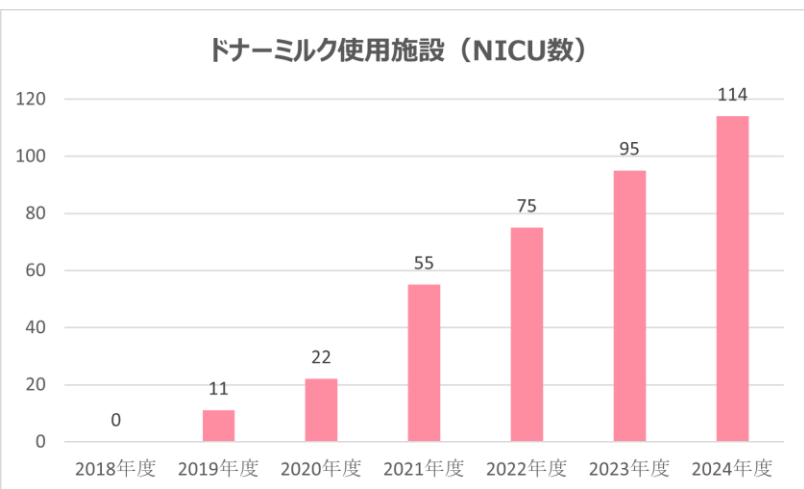
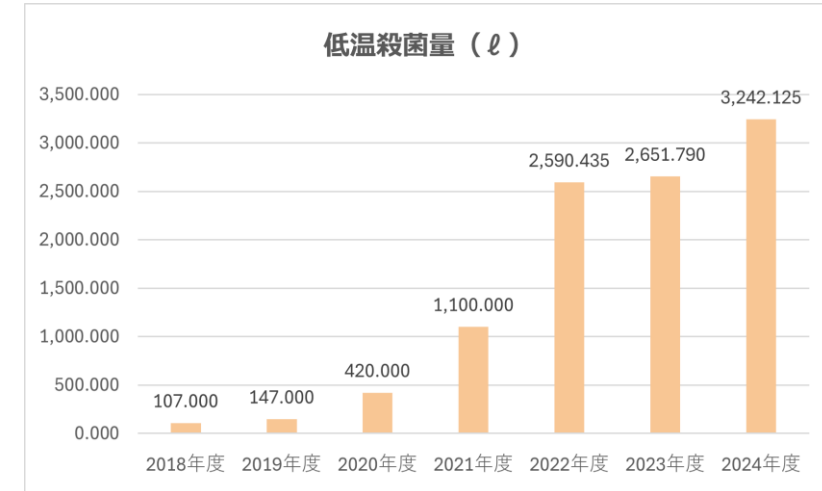
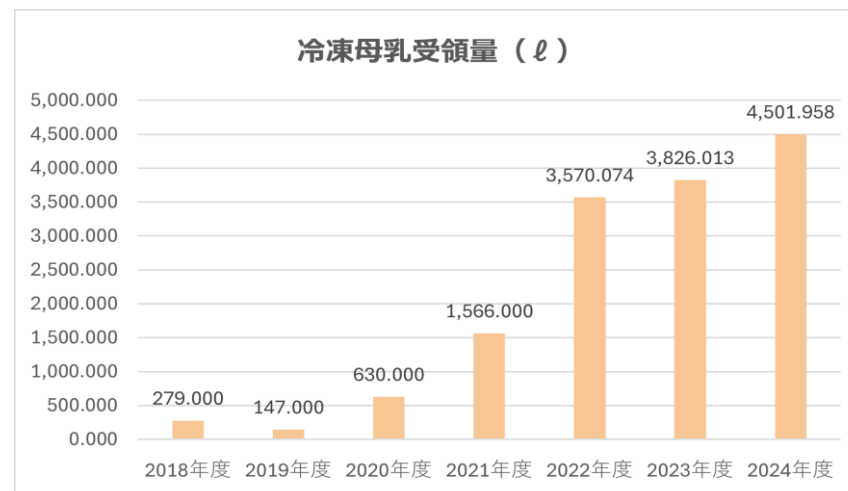
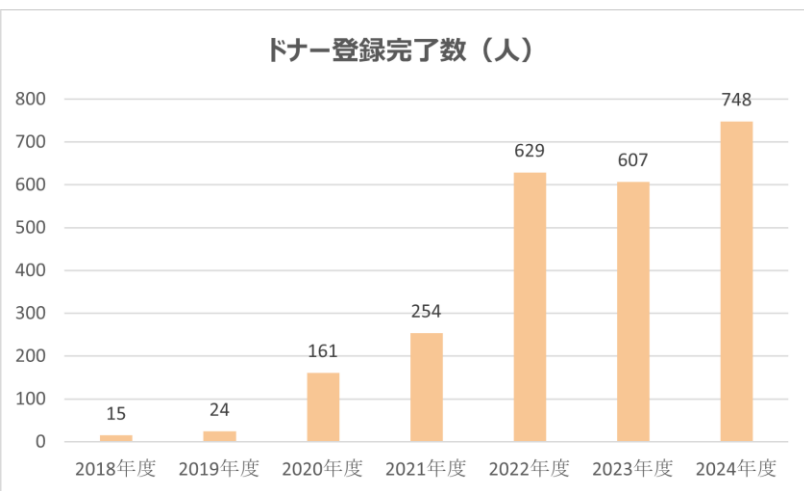
2つの母乳バンク（日本母乳バンク協会と**日本財団母乳バンク※**）の活動推移（2025年3月末現在）

※日本財団母乳バンクは2021年度法人設立2022年度より稼働開始

年度	ドナー登録完了数 (人)	冷凍母乳受領量 (ℓ)	低温殺菌量 (ℓ)	NICU配送量 (ℓ)	提供赤ちゃん人数 (人)	ドナーミルク使用施設 (=利用病院数)
2018年度	15	279.000	107.000	54.50	66	0
2019年度	24	147.000	147.000	73.80	112	11
2020年度	161	630.000	420.000	264.00	203	22
2021年度	254	1,566.000	1,100.000	879.00	364	55
2022年度	629	3,570.074	2,590.435	1,670.05	708	75
2023年度	607	3,826.013	2,651.790	2,003.42	934	95
2024年度	748	4,501.958	3,242.125	2,449.62	1,202	114

※：「冷凍母乳受領量」「低温殺菌処理量」は1ml単位で集計、「NICU配送料」はドナーミルクを30ml、80ml、150mlの3種類のボトルで提供しているため10ml単位で集計

【参考】母乳バンク活動の年度推移グラフ



運営上の課題と施策①：使用施設拡大の必要

2025年7月2日時点で、117施設（日本財団母乳バンク69施設、日本母乳バンク協会48施設）

※アメリカでは7割以上のNICUがドナーミルクを使用する一方、

日本では極低出生体重児を対象とするNICUのうち、ドナーミルクを導入しているのは2024年度末時点で60%程度

【ドナーミルク使用施設（NICU）拡大に向けて全国施設に営業中】

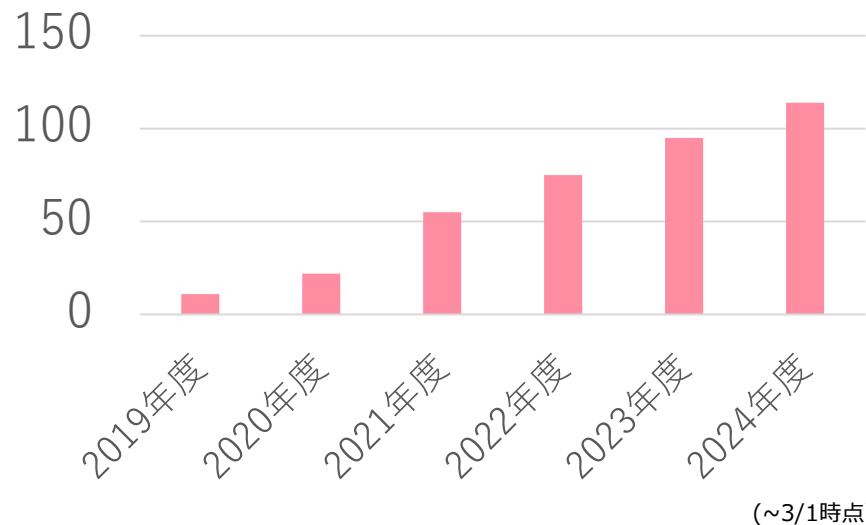
- アンケートで9割以上のNICUが「母乳バンク」の必要性を感じている
 - 費用面や手続き面での導入ハードルがあり
- 2022年4月1日～日本財団母乳バンクでドナーミルク使用施設登録をすれば、**初年度無償・無制限**でドナーミルクを提供
 - 2年度目以降は、「[賛助会員規程](#)」に基づき提供
 - 2年度目以降も、年2ℓ迄は無償提供
- 学会・カンファレンスで医療従事者への認知度向上および営業活動

【参考】「母乳バンク」の普及状況（2025/5/15現在）

全国43都道府県116施設（NICU）がドナーミルクを利用

- 2024年度は1,200人を超える赤ちゃんに提供
- 総合周産期母子医療センターのカバー率：66%
- 残り4県の普及により全国47都道府県にドナーミルクが届けられる
 - 広島県、島根県、高知県、熊本県

ドナーミルク使用施設数



運営上の課題と施策②：ドナー登録施設不足

ドナーは開始後、約1年で卒業 

ドナーミルク使用施設は年々増加 

毎年新規ドナー登録が必要⇒ドナー登録施設を増やす



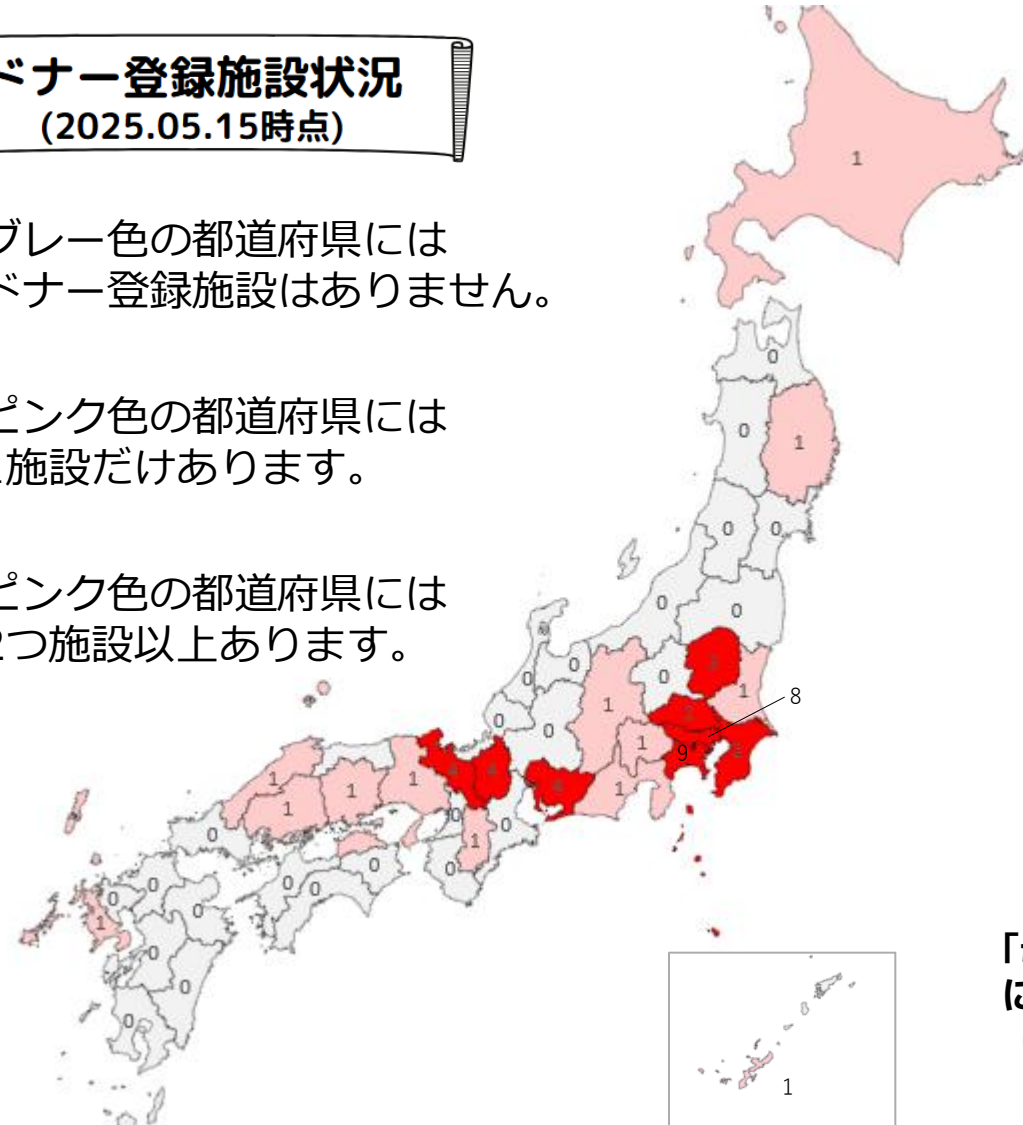
ドナー条件：産後1か月健診後
→生後間もない児のお母さんが問診に行くことになる

登録の利便性を高める必要がある

【参考】ドナー登録施設状況（2025/05/15時点）

ドナー登録施設状況 (2025.05.15時点)

- グレー色の都道府県にはドナー登録施設はありません。
- ピンク色の都道府県には1施設だけあります。
- ピンク色の都道府県には2つ施設以上あります。



ドナー登録を希望する お母さんたちの声

母乳がめっちゃ出ます。1番近くの施設でも往復3時間、、無理。必要とするベビちゃんがいるなら寄付したいけど。

登録しようと思ったらドナー登録施設が近くにない。問診や検査はかかりつけでできるようになったらもっと母乳バンクの輪が広がると思うのにな～

「母乳バンクを知っていたら寄付したのに」そんなお母さんたちの声が多い。けれど、登録施設が限られている。意外に大阪にない。

誰かの役に立つなら母乳バンクに寄付をしたい。調べた限りでは条件も満たしているけれど、問題は登録できる施設が近くにない。

余った母乳が役立つなら「母乳バンク」したいんだけど、乳飲み子を抱えて更に上の子もいて近くない病院に行くのは無理だ

運営上の課題と施策②：ドナー登録施設不足

- 申請数648 ➡ ドナー登録完了数456（2024年度実績）

- ドナー登録施設数：全国22都道府県50施設（※）※両バンク共通施設の重複を除く

- 日本財団母乳バンク27施設、日本母乳バンク協会25施設

施設数が少ない（日本財団母乳バンクの場合：11都府県27施設）→施設から遠方の方が断念

都道府県別	東京	神奈川	京都	滋賀	栃木	愛知	千葉	埼玉	沖縄	長野	北海道	香川	長崎	山梨	島根	茨城	広島	奈良	兵庫	岡山	岩手	静岡	総計
一社	3	4	1		3	2				1	1	1	1		1	1	1	1	1	1			23
一社/財団	1					1																	2
財団	5	5	3	4			2	2	1					1							1	1	25
総計	9	9	4	4	3	3	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	50

※2025年6月30日時点

産婦人科、小児科クリニックにドナー登録施設契約の呼びかけ

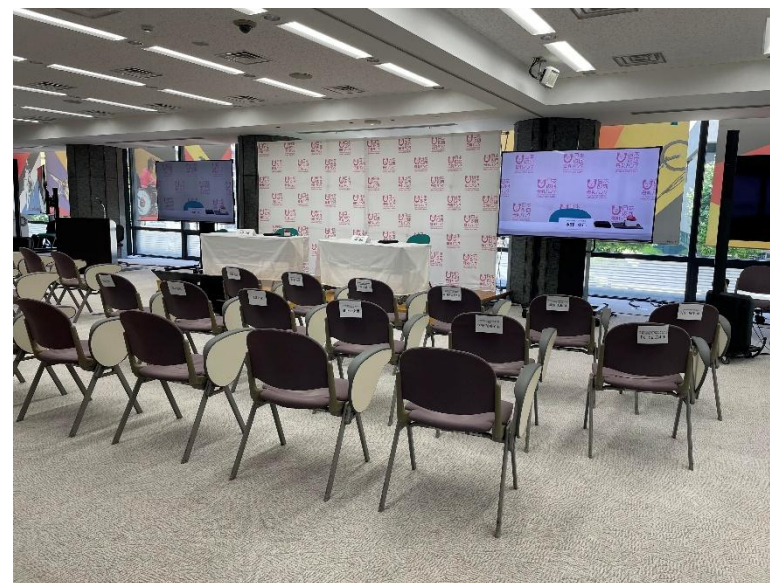
- ➡ 母乳バンクで随時、対面／オンライン説明会開催中
- ➡ 契約後初回問診前には、オンライン問診レクチャーを実施

運営上の課題と施策③：認知度向上

【国内認知度向上のために一般向け、医療従事者向け施策を実施中】

◆医療従事者・研究者対象施策

- 2025年6月7日 **第8回母乳バンクカンファレンス**開催@日本財団ビル
 - 参加者数：約140名－7割以上の参加者が医療従事者（医師、助産師、看護師）
- 随時、ドナー登録施設・ドナーミルク使用施設説明会を開催

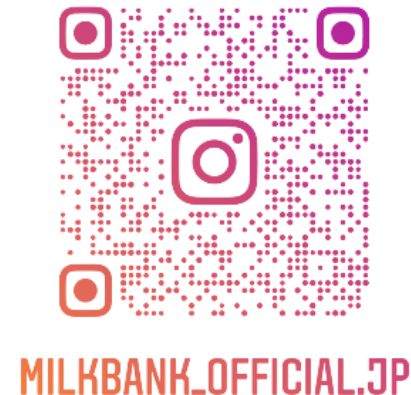


運営上の課題と施策③：認知度向上

【国内認知度向上のために一般向け、医療従事者向け施策を実施中】

◆一般対象施策

- ・ 2022年3月16日～公式ウェブサイト開設 (<https://milkbank.or.jp/>)
 - ・ 月間セッション数：16,378件 (先月 2025/5/1～5/31)
 - ・ 年間セッション数：136,322件 (2024年度 11,360件/月)
- ・ 2022年3月16日～インスタグラム開設 (@milkbank_official.jp)
 - ・ フォロワー数：4,577 (2025.6.30)
- ・ 随時、母乳バンク施設の見学会を開催



【参考】東京都のお取り組み

- 2023年 8月～ 都民ファーストの会と母乳バンクに関する勉強会を不定期開催
→同党有志の都議・区議が関係各所に働きかけ
- 2024年 8月 東京都保健医療局 母乳バンクチラシ配布・メルマガ発信
 - 区市町村の母子健康手帳を配布する窓口への設置（合計15,000部配布）
 - 産科施設（約1,000施設）
 - 都のメールマガジン「赤ちゃんファースト」での情報発信
- 2024年11月 東京都 令和7年度予算要求
 - 東京都 [令和7年度予算要求（保健医療局）](#) 「ドナーミルク利用支援事業（3,200万円）」
 - N I C Uにおけるドナーミルクの使用やドナー確保に向けた支援を行い、ドナーミルクを必要とするN I C U入院児等が必要な時に使用できる体制を整備する。
- 2024年12月 東京都議会 令和6年第4回定例会（[代表質問への小池都知事回答](#)）
 - 「次に母乳バンクについて、でございます。早産児等にとりまして母乳は母乳は命と成長のために必要なものであり、母親の母乳を得られない場合にはドナーミルクの活用が推奨されています。都は今年度、出産・子育て応援事業のメールマガジン等を活用しまして母乳バンクの普及啓発を実施しておりますが、ドナー登録やドナーミルクの使用にあたりまして医療機関の負担が大きいと、都内で対応できる施設に限られております。今後さらなる普及啓発に取り組むとともに、ドナーの登録やドナーミルクの使用ができる施設を一層確保できるための方策について検討して参ります」
- 2025年4月 東京都 令和7年度「[ドナーミルク利用支援事業](#)」開始
 - 母乳バンクのドナーを登録するドナー登録施設への支援事業とドナーミルク利用施設（NICU）への支援事業の2本立て